



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月7日

上場会社名 ユニチカ株式会社

上場取引所 東

コード番号 3103 URL <https://www.unitika.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上埜 修司

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 大西 正哲

TEL 06-6281-5721

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	88,764	7.2	3,850	39.8	2,917	47.0	1,121	
2019年3月期第3四半期	95,694	0.5	6,393	27.4	5,507	31.7	4,574	34.3

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,161百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 3,973百万円 (42.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	23.64	
2019年3月期第3四半期	74.14	46.12

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	195,909	39,869	18.6
2019年3月期	199,093	41,352	19.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 36,492百万円 2019年3月期 37,873百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	129,000	0.1	6,500	20.2	5,200	26.7	200	96.2	2.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	57,752,343 株	2019年3月期	57,752,343 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	94,252 株	2019年3月期	93,637 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	57,658,375 株	2019年3月期3Q	57,659,543 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
A種種類株式	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	12,000.00	12,000.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				12,000.00	12,000.00
B種種類株式	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	23,740.00	23,740.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				23,740.00	23,740.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、台風等の自然災害、消費増税後の一時的な内需の落ち込み、外需の減速などの影響を受けましたが、国内の設備投資や個人消費が堅調に推移し、良好な雇用環境や所得情勢の下支えもあり、緩やかな成長を維持しました。世界経済は、引き続き底堅さを見せた米国に対し、中国などでは引き続き停滞感が見られ、また米中貿易摩擦の再激化や中東情勢などの地政学リスクも懸念されるなど、足下では先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画「“G” round 20 ~ to The Next Stage (ジーラウンド・トゥエンティ ~ トゥザネクストステージ)」に掲げる3つの“G” (Growth, Global, Governance) の実現に努めてまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は88,764百万円 (前年同四半期比7.2%減)、営業利益は3,850百万円 (同39.8%減)、経常利益は2,917百万円 (同47.0%減) となりました。また、訴訟損失引当金繰入額2,540百万円を特別損失として計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,121百万円 (前年同四半期は4,574百万円の利益) となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

【高分子事業】

高分子事業は、昨年1月に発生した宇治事業所の火災によって、フィルム事業及び樹脂事業におけるナイロン製品については、生産、販売に影響がありました。

フィルム事業では、包装分野は、火災影響のほか、梅雨明けの遅れや暖冬などの天候不順による季節商品用途の需要鈍化などがありましたが、バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」などの高付加価値品は、国内外で好調を維持しました。工業分野は、国内外ともに半導体市況悪化により販売が減少し、また、高付加価値品の耐熱性ポリアミドフィルム「ユニアミド」は、上期は販売が好調に推移しましたが、下期に入り減少しました。シリコーンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」は順調に販売が拡大しました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、火災の影響による販売の減少やコストアップなどにより収益が悪化しました。また、ポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、海外向け自動車用途での需要減少に加え、情報端末機器用途での在庫調整もあり苦戦しました。その他の機能樹脂についても、中国景気の停滞や、自動車生産の減少等による需要減少の影響を受け、低調に推移しました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、土木などの建築資材では、概ね堅調に推移しましたが、農業など、その他分野では全般的に伸び悩みました。タイ子会社のTHAI UNITIKA SPUNBOND CO., LTD. (タスコ) は、新機台製品のスペックインは進みつつありますが、自動車関連用途での需要減少もあり、全体としては低調でした。また、コットンスパンレースは、国内の販売は取引先の在庫調整の影響もあり一時的に減少しましたが、海外向けの衛材用途は販売が順調に拡大しました。

以上の結果、高分子事業の売上高は42,738百万円 (前年同四半期比9.4%減)、営業利益は3,939百万円 (同33.2%減) となりました。

【機能材事業】

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、防煙垂れ壁等の建築用途及び環境関連用途の販売が堅調でした。電子材料分野のICクロスは、半導体市況が復調していない影響はあったものの、超薄物や低熱膨張タイプなどの高付加価値品の販売は順調に拡大しました。

ガラスビーズ事業では、工業用途は自動車分野や電子部品分野では、引き続き需要減少の影響を受けましたが、反射材用途や道路用途は堅調を維持しました。

活性炭繊維事業では、主力の浄水器用途は水栓一体型を中心に引き続き堅調に推移し、また、工業用フィルター用途はやや回復基調に転じましたが、VOC除去用途等は一部で取引先の在庫調整の影響を受けました。

以上の結果、機能材事業の売上高は9,836百万円 (同3.3%増)、営業利益は769百万円 (同13.6%減) となりました。

【繊維事業】

産業繊維事業では、短繊維は、生活資材用途及び産業資材用途は堅調でしたが、輸出は低調に推移し、ポリエステル高強力糸は、資材用途は堅調を維持しましたが、土木建築用途の販売は減少しました。また、水産用途等も総じて低調でした。

衣料繊維事業では、スポーツ分野、レディス分野、寝装分野等では引き続き苦戦し、これまでワーキング用途を中心に堅調に推移していたユニフォーム分野では販売が減少しました。また、海外向けデニム生地の販売は前年並みで推移しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は36,055百万円（同4.7%減）、営業損失は671百万円（前年同四半期は121百万円の損失）となりました。

【その他】

その他の事業につきましては、売上高は133百万円（前年同四半期比88.6%減）、営業損失は181百万円（前年同四半期は237百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ3,183百万円減少し、195,909百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が減少したことによります。負債は、前連結会計年度末に比べ1,700百万円減少し、156,040百万円となりました。これは、訴訟損失引当金を計上したものの主として支払手形及び買掛金が減少したことによります。純資産は、前連結会計年度末に比べ1,483百万円減少し、39,869百万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月8日に公表しました通期の連結業績予想の修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,580	20,006
受取手形及び売掛金	35,316	32,566
たな卸資産	29,639	31,225
その他	2,416	2,580
貸倒引当金	△61	△55
流動資産合計	89,891	86,324
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	23,002	22,859
土地	65,629	65,167
その他(純額)	14,235	15,183
有形固定資産合計	102,868	103,210
無形固定資産		
その他	1,927	1,766
無形固定資産合計	1,927	1,766
投資その他の資産		
その他	4,444	4,624
貸倒引当金	△37	△16
投資その他の資産合計	4,406	4,608
固定資産合計	109,202	109,585
資産合計	199,093	195,909

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,056	14,890
短期借入金	2,430	2,264
1年内返済予定の長期借入金	99,993	97,869
未払法人税等	589	136
賞与引当金	1,648	880
製品改修引当金	72	43
その他	8,743	10,454
流動負債合計	131,534	126,539
固定負債		
長期借入金	180	137
役員退職慰労引当金	4	—
訴訟損失引当金	—	2,540
退職給付に係る負債	13,184	13,741
その他	12,836	13,081
固定負債合計	26,206	29,500
負債合計	157,740	156,040
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	13,218	13,218
利益剰余金	24,040	22,596
自己株式	△56	△56
株主資本合計	37,302	35,858
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	363	486
繰延ヘッジ損益	△69	△167
土地再評価差額金	6,412	6,412
為替換算調整勘定	△3,589	△3,844
退職給付に係る調整累計額	△2,545	△2,253
その他の包括利益累計額合計	571	633
非支配株主持分	3,479	3,377
純資産合計	41,352	39,869
負債純資産合計	199,093	195,909

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	95,694	88,764
売上原価	73,387	68,564
売上総利益	22,307	20,200
販売費及び一般管理費	15,913	16,349
営業利益	6,393	3,850
営業外収益		
受取利息	31	25
受取配当金	70	71
持分法による投資利益	27	19
受取賃貸料	97	93
その他	247	167
営業外収益合計	474	376
営業外費用		
支払利息	920	885
その他	440	423
営業外費用合計	1,361	1,309
経常利益	5,507	2,917
特別利益		
固定資産売却益	19	74
投資有価証券売却益	—	0
関係会社清算益	398	—
特別利益合計	418	75
特別損失		
固定資産処分損	460	860
投資有価証券評価損	—	42
訴訟損失引当金繰入額	—	2,540
その他	—	27
特別損失合計	460	3,471
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,465	△477
法人税、住民税及び事業税	601	436
法人税等調整額	281	261
法人税等合計	883	697
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,582	△1,175
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	7	△54
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	4,574	△1,121

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,582	△1,175
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△180	123
繰延ヘッジ損益	△32	△113
為替換算調整勘定	△663	△287
退職給付に係る調整額	267	291
その他の包括利益合計	△608	13
四半期包括利益	3,973	△1,161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,978	△1,059
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△102

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社が、愛知県豊橋市（以下「豊橋市」）から1951年に譲り受けた工場用地を第三者に売却したことは、用地を譲り受けた際の契約に違反するとして、豊橋市住民が豊橋市長に対し、当社に対して損害賠償金の支払等を請求するよう求めている訴訟（当社は補助参加人として参加）で、2018年2月8日、名古屋地方裁判所は、豊橋市長が当社に対し63億円の損害賠償金の支払及び遅延損害金の支払を請求するよう命ずる判決を言い渡しました。豊橋市長はこの判決を不服として、同年2月20日付けで名古屋高等裁判所に控訴（当社は補助参加人として参加）しましたが、2019年7月16日、名古屋高等裁判所より、豊橋市長に対し、約20億94百万円の損害賠償金及び遅延損害金の支払いを請求するよう命じる判決が言い渡され、豊橋市長は当該控訴審判決について、同年7月29日付けで最高裁判所に上告及び上告受理申立を行いました。当社は、第2審判決に基づき合理的に算出した金額を見積もり、訴訟損失引当金25億40百万円を計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	47,153	9,526	37,841	94,521	1,173	95,694	—	95,694
セグメント間の内部売上 高又は振替高	7,000	643	387	8,031	914	8,946	△8,946	—
計	54,154	10,170	38,228	102,553	2,087	104,641	△8,946	95,694
セグメント利益又は損失 (△)	5,897	891	△121	6,666	△237	6,429	△35	6,393

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種プラントの設計施工及び整備保全等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	42,738	9,836	36,055	88,630	133	88,764	—	88,764
セグメント間の内部売上 高又は振替高	6,851	531	385	7,769	18	7,787	△7,787	—
計	49,590	10,368	36,441	96,400	151	96,551	△7,787	88,764
セグメント利益又は損失 (△)	3,939	769	△671	4,037	△181	3,855	△5	3,850

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。